

2011年3月 東日本大震災発生 から始まった当社の「課題解決への思い」

日本遮蔽技研の開発サービスの歩み

2012年	線量計用コリメータ
2013年	高性能放射能濃度測定システム「Monster」 GPS運動型空間線量率自動記録システム「NSG-System」
2015年	レーザー除染システム「ストリークブラスター」
2016年	福島校正センター設立
2018年	福島校正センターの国際機関(ISO-17025)取得
2019年	獣害セキュリティサービス「あいわな®シリーズ」
2024年	無人警戒システム「VIGILA」 「VIGILA」の活用についてセコム株式会社と協業開始

変化する「フクシマの課題」

放射線モニタリングが急務に

福島第一原発の事故発生に伴い、県内に立ち入り禁止区域が発生。復興の第一歩として目に見えない放射線を検知するため線量のモニタリングが急務に。

放射線の遮蔽・除染方法の確立と その校正技術が必要になる

放射線のモニタリングが可能になった後、今度は放射線の遮蔽方法や、汚染された土壤・物質を除染という課題に直面するようになります。

被災地に居住者が戻り始めるも 鳥獣害が課題に

被災地へ徐々に居住者が戻り始めるも、野生化した家畜や動物園から逃げ出した動物が大量に繁殖。住宅や農作物への被害を抑えるため、鳥獣を早期検知する仕組みが求められるようになります。

太陽光発電施設で多発する銅線盗難への 対応が求められる

旧避難地域や仮設住宅等の跡地の有効活用のための太陽光発電所。これらの発電所で銅線泥棒が頻発していることから、盗難被害を未然に防ぐ検知システムが求められるようになります。